

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

勝池レポート      アジア資産運用アドバイザー      勝池和夫

「インド経済を変える二つの AI」

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

これからのインド経済は以下の二つの AI で劇的に変わりそうです。

●一つ目の AI は、Artificial Intelligence (人工知能) です。左の写真でモディ首相と面談している人物は、人工知能向け大手半導体メーカーのエヌビディアの CEO ジェンセン・ファン氏です。昨年 9 月にインドを訪れた同氏は、首相の他インドの大手財閥リライアンス・インダストリーズやタタ・グループ、そして IT 大手のインフォシスのトップとも会い、AI 分野での提携を発表しました。

エヌビディアは 2004 年にインド進出し、現在は 4 拠点で約 3,800 人を雇用しています。加えて 32 万人が同社の開発プログラムに登録しています。今回の提携ではインドでの大規模言語モデルの開発や生成 AI アプリなどの構築で協力する計画です。更に提携企業の従業員の AI 技術教育も同社が担う予定です。

ファン CEO は、「インドは AI 分野で世界の原動力になる変わり目にいる。今後数年でインドの最大の輸出品目が AI になる可能性がある」と述べています。現在は石油製品や宝飾品が最大の輸出品目ですから、インドの産業構造も大きく変わりそうですね。

●二つ目は、Advanced Infrastructure (急速なインフラ整備の進展) です。右の写真でモディ首相が掲げているのは、今年の総選挙のために BJP(インド人民党)が用意した選挙公約 (マニフェスト) です。その中の、「国際的なレベルのインフラ整備の約束」で、鉄道に関する主要部分を抜粋します。

①鉄道路線の延長—過去 10 年、路線を 31,000 キロ延長した。今後 10 年は毎年 5,000 キロ延長する。

②駅の改修—現在 1,300 の鉄道駅を改修中。今後は中規模の駅も世界水準に改修する。

③地下網の拡張—過去 10 年間に 20 以上の都市で地下鉄が開業した。今後は地下鉄が利用できる都市を更に増やし連結性を向上させる。

④高速鉄道網の拡張—現在建設中の日本の新幹線方式を採用した高速鉄道の経験を活かし、インドの北、南、東の地域でも高速鉄道の実現可能性調査を行う。

また、「スポーツ振興の約束」では、2036 年にインド初のオリンピック招致、競技場などのスポーツインフラ整備などが盛り込まれています。



このように、インドの経済は二つのAIで、目に見えて変化していくと予想されます。以下の写真左はインド工科大学ボンベイ校にて開かれた、エヌビディアのDLI (Deep Learning Institute) 主催の講習会の模様です。右は改修中のニューデリーの鉄道駅の内部と外観のデザインです。インドでは、まさにこれから二刀流のAIによる経済のトランスフォーメーションが起こりそうです。



~~~~~ お知らせ ~~~~~

好評発売中。インド株投資の前には一読ください。

